

## 平成 27 年度 第 1 回

### 水戸市ボランティア・NPO 等との協働推進のための市民懇話会 会議の概要

日 時 平成 27 年 11 月 4 日（水） 午後 2 時～4 時

場 所 水戸市役所本庁舎南側臨時庁舎 3 階 中会議室

#### 議題 1：市民と行政と一緒に考える新たな協働体制について

市民と行政と一緒に考える協働体制の概要について説明し、本年度の市民懇話会で協議する内容の確認を行った。

##### 【主な意見】

（委員） ナビスタッフとは何か。

（事務局） ナビスタッフは、市民活動団体との関わりが多い課などを中心に、各課に 1 名ずつ設置しているもので、団体から協働事業の提案があった際などに相談窓口となる役割を担っている。

（委員） ナビスタッフの位置付けは今までと変わらないのか。

（事務局） 位置付けとしては変わらないが、新たな協働体制の中では、市民アンケートの内容協議に参加することや、（仮称）交流のひろばに参加するなどの関わり方をする。

（委員） 高齢者にとっては、文章だけを見ても何が書いてあるのか理解しにくい現状がある。高齢者、障害者など、いろいろな人からの意見が必要なので、そのような人たちでもアンケートができるように工夫してもらいたい。

（事務局） アンケートの内容は、次回以降の市民懇話会で、皆様の意見を反映させながら一緒に考えていきたいと思っている。

（委員） アンケートの対象は水戸市の全世帯か。

（事務局） 水戸市に住む 16 歳以上の個人を対象とし、2000 人程度で実施したいと考えている。

（委員） アンケートの内容は、今年度に案を考えて、来年度決定するのか。

（事務局） 今年度のうちに、アンケートの具体的な質問項目や実施方法について決定し、来年度から実施したいと考えている。

（委員） アンケートは、毎年実施するのか。

（事務局） 毎年テーマを変えて実施したいと考えている。

（委員） アンケートは毎年 1 回のみの実施なのか。環境、福祉、子育てなど、いろいろなテーマがあるが、テーマごとに毎年 1 回のみ実施することになると何年もかかることになる。

（事務局） 確かに全てのテーマを取り上げるとなると、何年もかかってしまう。今回の案では、1 年ごとに 1 つのテーマに絞って、円卓会議の中で少しずつ掘り下げていくという実施方法で提案した。次回以降の市民懇話会で意見

をいただきながら、より良い実施方法について考えていきたい。

(委員) アンケートの実施方法については、まだ決まっていないということなので、意見をいただきながら、一緒に考えていくということで進めていきたい。

(委員) テーマごとにアンケートを実施するということが、複数のテーマが関わり合って、地域の課題が生まれていると思う。

(委員) 1年に2回はアンケートを実施して、いろいろなテーマに対応できるようにしてほしい。1年ごとにアンケートをとっていても、何年かかるのか分からない。

(委員) 1回に複数のテーマで実施してはどうか。

(委員) 事務局として考えているテーマは何か。

(事務局) 第1回目のアンケートは、「協働のまちづくり」という広いテーマで考えている。第2回目以降は、課題と感じていると思う人が多いテーマから取り上げていくなどを考えている。

(委員) 「水戸市を暮らしやすく、魅力と活力あふれるまちにする」という目標を達成するためのアンケートの実施方法を考える必要があると思う。単に、「協働について考えましょう」では意味がないと思う。

(委員) いろいろな所からアンケートの依頼は来るが、答える気にはならず、放っておくことが多い現状がある。

(事務局) アンケートに興味を持って答えてもらうために、何らかの工夫が必要だと思っている。これから御意見をいただきながら、作り上げていきたい。

(委員) 市民の意見を暮らしに反映しながら、市民と行政が一緒になって課題について考えていくという内容でとても良いと思うが、抽象的で曖昧な部分が多いように感じる。

(委員) 課題解決をいつまでに達成するかの目標年次を定めずにこの体制を進めていくのか。

(事務局) アンケートを実施し、交流のひろばで話し合いを行い、諮問・答申を経て市政に反映するという流れは、1年を単位として考えている。

(事務局) 他市の事例を見ても、様々な関係主体との合意形成を図る過程を経るため、どうしても時間がかかってしまうが、ある程度の結論を出すことは必要になってくる。今のところ考えているスケジュールとしては、1年をめぐりに結論を出し、市政に反映できるようなものを考えている。

(事務局) 本日は、全市的な大きな枠組みで、新しい体制を作っていくということで提案させていただいた。この体制づくりが、これからの新しい考え方を生むものになるよう、皆さんの意見をいただきながら具体的なものにしていきたいと思う。

(委員) アンケート調査を生かしながら、話し合いの場も作って市政に反映する

という新しい体制を作るということで、御理解いただけているとは思いますが、これから具体的に進めていく中で、さらに御意見いただきたいと思う。

## 議題2：市民アンケートについて

市民アンケートの目的や実施概要の案について説明した。また、他市の事例として、兵庫県川西市の「川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート」を紹介した。

### 【主な意見】

- (委員) 水戸市の16歳以上の人口は何人か。
- (事務局) 把握していないので、次回までに調べて報告する。
- (委員) 若い人もアンケートに参加するべきだと思う。ホームページでもアンケートに答えられるようにしないのか。
- (事務局) これから御意見をいただきながら考えていきたいと思うが、ホームページを利用した回答も可能である。
- (委員) どのくらいの回収率になるのか。
- (事務局) 他市の事例を見ると、だいたい30%の回収率となっている。例えば2000通出すと600通程度の回収となる。
- (委員) 統計処理はソフト等を使っているのか。数を集計するだけでは意味がないので、どのような人が回答しているかを考慮して分析する必要がある。
- (事務局) 委託となれば、統計処理ソフトを使っている場合もあると思う。
- (委員) 川西市のアンケートは毎年行われているのか。
- (事務局) これは1回限りのアンケートである。他市の事例を見ると、アンケートは、計画策定の際の資料とするために行う例が多い。
- (委員) このように複数回アンケートを行うやり方は他の市にはないのか。
- (事務局) みとの魅力発信課で行っているインターネットモニター制度によるアンケートは、毎回テーマを変えて行っている。
- (委員) 市民アンケートを活用して、実際に政策に反映していく流れを作っていくというのは、水戸市のオリジナルなのか。
- (事務局) オリジナルである。
- (委員) 日常生活で本当に困っている人は、市民相談室や相談窓口などに相談していると思うので、どんな相談が多いのかなども把握しながら進めてほしい。
- (委員) 見えない部分が見えるアンケートの取り方で実施しないと、本当に市民の役に立つ政策にならないと思う。意欲的なプロジェクトだが、その点を頭に入れておいていただきたい。
- (委員) 無作為抽出とはどのようにして行うのか。
- (事務局) いろいろやり方はあると思うので検討させていただきたい。人口構成を考慮して行う無作為抽出や、そのまま無作為に選ぶ方法もある。

- (委員) 川西市の例では、協働に対する市民の意識は分かるが、具体的な施策に繋がる意見反映の質問項目はない。
- (委員) 市民は意見を持っているので、その意見を具体的に聞けるような内容にする必要があると思う。協働についての初歩的な質問だけでは、アンケートを実施しても意味がないので、具体的に踏み込む必要があると思う。
- (事務局) 今後の検討の中でさらに意見をいただきながら作りあげていきたいと考えている。
- (委員) アンケートに答える立場としては、具体的な質問なら答える気になるが、抽象的だと答える気がしない。具体的な問いかけがあればいいと思う。
- (委員) 具体的に踏み込んだ内容にする必要があるということで、次回以降、さらに意見をいただきながら作り上げていきたいと思う。

### 議題3：今後のスケジュールについて

市民懇話会の今後のスケジュールについて説明した。

#### 【主な意見】

- (委員) アンケートのたたき台のようなものは次回提示されるのか。
- (事務局) 事務局の案としてたたき台となるものを作成し、それをもとに意見をいただきながら作り上げていきたい。
- (委員) 事務局の案は事前にご送っていただき、意見などを考えて次回参加していただきたい。
- (委員) みとの魅力発信課とも協力して、市民がどんなことを思っているのか、協働できる分野はどのようなものがあるか、どこの行政に厚みを持ってもらいたいと思っているのかなどを質問に含めた方が、より具体的で答えやすいと思う。アンケートに意見を書くことによって、施策に反映されるんだという期待感が持てるようなものにしていただきたい。
- (委員) 市民は、行政が何をやっているのか知らないので、各課でどのようなことをやっているか参考資料を付けるべきだと思う。
- (委員) 「協働」という言葉自体も知られていない現状がある。自分には関係ないと思われる可能性もあるので、困っていたことがこんなふうに解決されたという事例を示すなど、工夫が必要だと思う。
- (委員) 「自分にとって水戸市の暮らしやすさとは何か」ということを頭に置いて回答できるようなアンケートにしてほしい。そのようなアンケートなら、意欲を持って記入できると思う。
- (委員) 行政だけでは解決できない問題がたくさんあるので、市民が「何とかしなきゃ」と思わないとだめだと思う。
- (委員) 声なき声をすくいあげるようなアンケートにする必要があると思う。
- (委員) アンケートの集計段階で、地区別での集計もできるのか。地域によって

課題は違うので、地区別の集計は重要なことだと思う。円卓会議も地区別で行うことは考えているのか。

(事務局) 円卓会議について現在考えているものは地区別ではないが、今後発展していけば地区別で行えると思う。みとの魅力発信課で行っている市民懇談会は、地区ごとに行政と話し合う場として開催している。

(事務局) 現在は、地区会ごとにコミュニティプランというものを作成しているところであり、地区会を単位として話し合っていこうという動きはある。

(委員) 例えば、旧内原町と旧水戸市のように、地域ごとに市民感覚は全然違うので、課題について一緒に考えるのは難しいと思う。

(委員) 地区別の集計が必要だと思う。アンケートで吸い上げた課題は、地区会にも反映して、地区会からも意見をもらう必要があると思う。

(事務局) 基本的な質問項目として、年齢や性別、居住地等を入れようと考えているので、地区ごとに分析することはできる。

#### **議題4：その他**

- 次回の市民懇話会について

平成27年12月9日(水)午後2時から東側臨時庁舎の会議室2で開催する。

- 情報公開について

協働の原則に基づき、会議の概要を市ホームページとこみっと広場で公表することの了承を得た。

- こみっと広場について

市民活動情報 Web サイト「こみっと広場」について、積極的な活用を促した。